bethel hospice letter autumn

ホスピスだより

tender loving care vol.22

松山ベテル病院 緩和ケア病棟
〒790−0833
松山市祝谷6丁目1229番地
TEL 089（925）5000
FAX 089（925）5599

医療法人 聖愛会
松山ベテル病院
http://www.bethel.or.jp

はじめに

私たち緩和ケア病棟では「尊厳を保ち、生き抜くことを支援します」の理念の基、日々、患者さま・ご家族一人ひとりと向き合っています。皆さま一人ひとりが生きがいとしていることや、経験してきたこと、思いなど様々です。

今までの人生を振り返り、様々な体験を話してくださる時の笑顔、今まさに生きがいとして取り組んでいることを話してくれるときの真剣な表情は、私たちに勇気を与えてくれます。そして私たちも“皆さま一人ひとりが輝ける場所を提供したい”という思いのもと、様々なアイデアを出し合い日々関わっています。

今回のホスピスだよりでは、患者さま一人ひとりの病院内での活動や思いを紹介させていただきたいと思います。

まず、武内さんについてご紹介させていただきます。

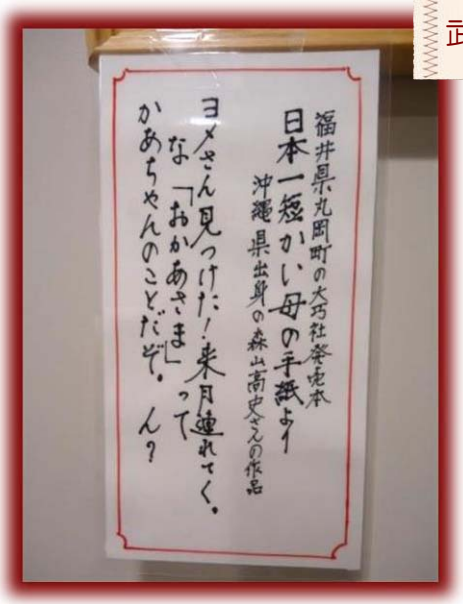
～武内さんにとって“書く”とは～

ふとした仕事の合間に見る武内さんの書く姿は、どことなくオーラが漂っており、人々をひきつけます。まるでその瞬間だけ時が止まっているような感覚。

武内さんは若い頃から“文章を書くこと”に本気で向き合ってきた方でした。小説を書いたり、講演会でお話されたりと様々なことに取り組まれてきました。

色々な話しを聞く中で武内さんの人生は喜びや楽しみだけでなく、辛く苦しい時や不安、葛藤に襲われる時もあったんだろうなと思います。今までの人生での経験と思いが、“書く”という行為そのものなのでしょう。

そんな貴重な時間を武内さんと共に共有できることに喜びを感じています。



武内さんの作品です。

主治医と一緒に

～楽しく過ごす～

木村さんはとても明るくおしゃべりな方。奥さんに木村さんのことを聞くと「主人は仕事人でした。」と話されます。

そんな木村さんは現役中に友人の紹介でボランティアグループに所属し、10 年前より廃材を利用し近所の幼稚園の園児に卒業式に鉛筆立てを作成したり、多肉植物を育て幼稚園に寄付をするという活動をされていました。3 年前にボランティアグループは無くなりましたが、その後も自主的に活動されていたようです。

木村さんの希望はボランティア活動での経験を活かし、“保育園の子供達に紙飛行機を作成し子供達と一緒に飛ばすこと。”当院に隣接する保育園のスタッフの方々、ご家族、子供達の協力の　　もと、ついにその願いが実現しました。子供達一人ひとりに向ける木村さんの笑顔はとても優しく、　　在籍したスタッフもとても暖かい気持ちになりました。木村さんは奥さんに「ここに来て本当に　良かった。」と笑顔で語ってくれたそうです。

木村さんよりスタッフ一人ひとりに多肉植物のプレゼントをいただきました。病棟でまたはそれぞれの家庭で…
すくすく育っています。
主治医の坪田先生に木村さんから多肉植物のプレゼント。
二人とも良い笑顔です。

～一筆一筆に心を込めて～

幼い頃から、車椅子で過ごしてきた叔母は、美術や音楽、書物をこよなく愛し、芸術性に溢れた素敵な女性でした。

私も、叔母の部屋に行くと、いろいろな絵を描いてもらったり、モーツァルトやショパンのピアノ曲のレコードを聴かせてもらったり、百人一首の歌を詠んでもらったりするのが大好きでした。叔母の趣味の中でも、とりわけ絵に関しては身内の私達が見ても感心するほど、一筆一筆に心を込め、一生懸命に取り組んでいたと思います。

今回のような形で、叔母の絵を載せていただけることになり、天国の叔母はもちろん、家族一同、とても幸せに思っております。ベテル病院のスタッフの皆さまには、感謝の気持ちでいっぱいです。叔母の思いが、この絵を見て下さる方々に届きますように。　（黒川美奈子様姪：黒川　文様）

～サプライズ～

緩和ケア病棟では、毎年夏にビアガーデンが開催されます。今年も８月６日に開催され、患者さまだけでなく、ご家族も参加され、賑わいました。

今年は入院中の患者さまが、どうしてもこの日にサプライズをしたいという思いから、早い段階でスタッフの協力のもと企画され、主治医や担当看護師、ボランティアの方々に感謝のメッセージと、似顔絵を書いてプレゼントしてくださいました。主治医は手作りのタキシードを着て、患者さまはメガネとメイクをし、周りの方々に笑顔を与えてくださいました。そして、患者さまに対しては、ご友人から花束のプレゼントが贈られ、予想外の逆サプライズに感激し、涙されていました。今回のような企画は初めてで、感謝と笑顔溢れるビアガーデンとなりました。

彼女は、自分のような患者がいるということをみんなの記憶に残しておきたい、そして他患者の想いも同じであり、代表の気持ちで感謝を述べたいという思いから、辛い闘病生活の中、頑張ってサプライズを計画されました。当日参加できなかった息子さまには後日、作品を見ていただき、ご本人が一番伝えたかった自分の生き様を展示物という形で伝えることができたのではないかと思います。　（担当看護師：重松）

～刺繍で想いあう～

　次に紹介している物は、文化刺繍とスクラッチアートという作品です。
文化刺繍を始めたきっかけは 45 年前に手芸屋さんからいただき、足の骨折で入院した時に覚えたそうです。30 年前にしていたのが最後で、今回再開し、入院中にも何点か仕上げ病棟にプレゼントしてくださいました。とても繊細で細やかな作業に真剣に取り組まれていました。
　スクラッチアートは、刺繍の材料が届く間、一枚一枚仕上げておられました。
仕上がった時の感想を尋ねると「疲れたー！」と笑って答えてくださいました。
絵を一枚一枚見てみると植物の中に動物が隠れていたり、楽しませてくれる作品です。

　この方が刺繍を始めたきっかけは、15 年一人暮らしをされており、ボケ防止のために始められたそうです。刺繍の材料は娘さんが買って来られ、初めは「ただやっていただけ。」と答えられましたが、「子どもにとって母親は大事だから…。この歳になって気付いたの。だから、子どもに心配をかけないように頑張ろうと思って。」とおっしゃっていました。
　親子で互いのことを想い合って出来上がった作品だと胸を打たれました。

ボランティア募集しています！

病室へのティーサービスにご奉仕くださる方、病棟のお花やベランダの園芸のお世話をしてくださる方、チャペルでのレクリエーションにご協力くださる方等々。
※「聖愛会ボランティア説明会」（無料）の受講が必要です。心身ともに健康な方で、定期的・継続的に活動いただける方の問い合わせをお待ちしております。
TEL：(089) 925－5000　FAX：(089) 925－5599　E-mail:volunteer@bethel.or.jp
（ボランティア委員会　担当：森 ）

ホスピス献金をお願いします!!

ホスピス献金は、緩和ケア病棟等の援助や(医)聖愛会の諸活動の援助の為に(医)聖愛会に寄付として頂いております。
皆さま方の暖かいご支援をお願い申し上げます。

★現金送金 ★
〒790－0833　松山市祝谷 6 丁目 1229 番地
松山ベテル後援会（松山ベテル病院内）
★郵便振替口座★
口座番号：01610－2－25364　　名義：松山ベテル後援会
※「ホスピス献金」として献げる旨と「金額」をご記入ください。

編集後記

芸術の秋に今号を発行する事になりました。患者さま一人ひとりの活動や大切にしている思いなど紹介させていただきました。皆さまの素敵な笑顔は、私たちスタッフ一人ひとりをとても暖かい気持ちにさせてくれます。今後も随時ご紹介させていただきたいと思います。どうぞご期待ください。ご協力いただいた皆さまに深く感謝いたします。

編集委員　和田・佐々木・二宮